

東日本大震災被災地での徳島県歯科医師会の身元確認作業 及び歯科保健医療活動協力の経験を生かして

被災地へ身元確認作業協力へ参加した際に撮影



4階まで浸水
5階に避難した約100人はヘリコプターで救出

宮城県防災対策庁舎の鉄骨3階建て15.5mの屋上2mまで津波



指定避難所だった

市民体育館
15.8m浸水



歯科保健医療活動協力のための現地での様子
仙台市内コンビニ店内（ほとんど商品が無い状態）

避難所(朝・昼食:パンとカップ麺、夕食:配給なし)

避難所での口腔衛生管理を充分行うことが誤嚥性肺炎等による災害関連死を防止する重要な方法です。

2016年発生 of 熊本地震では亡くなった270人中、215人が災害関連死として認定されています。

- ・ 慣れない**避難所生活**で**肺炎状態**になり死亡した人
- ・ エコノミークラス症候群の疑いで死亡した人 (出典：内閣府公式サイト)

徳島県歯科医師会では、この教訓を生かして、大規模災害に対する取り組みを行っています。

災害時 歯科にする大きな流れ

- 歯科医療活動・・・救急歯科医療活動（往診、診療車）
- 歯科保健活動・・・避難所での口腔ケア（災害関連死の予防）
- 身元確認作業・・・死後記録の採取と整理
（警察歯科の役割） 生前資料の収集、照合作業（鑑定書）

被災地にて診療バスでの歯科医療保健活動の様子



現地では水はとても貴重で、うがい用のコップに入った水でうがいをしてもいいのかと聞かれることもあった。



実際に身元確認作業に当たった歯科医師の手記

身元不明のご遺体が少ない、小さい町なので人相、着衣で殆ど個人を識別できたらしい、雪がしんしんと降り続く中、体育館でひたすら口腔チャートを記入した、体育館のガラスはすべて割れていて風が冷たく手が悴んでチャートがうまく書けなかった、講習会では3人1組で口腔内を見る人、チャートを記入する人、明りを照らす人での実習だったが、ここではすべて一人で行うしかなかった、すでに死後硬直がひどく金属性のヘラを無理やり入れ口をこじ開けた、一人で見てチャートを記入すると何度もこじ開けなければならない、検視が終わり石巻警察所に着いたのは20時を過ぎて真っ暗だった、腕が筋肉痛になっていた。

遺体袋から小さな女の子を取り出し、半日ずっと抱きしめていた母親がいた、案内した警察官もそばに半日ずっと立っていた、その傍らでチャートをひたすらとる、その場から逃げだしたい気持ちで一杯だった。小さい男の子のご遺体に泣きながらすがりつく小学生くらいの女の子がいた、弟だったのだろうか、母親が一生懸命なくさめる。高齢のご遺体の周りに10人位のご遺族が泣きくずれる、皆に愛されたやさしいお祖父さんだったのだろうか。服を着せてもいいかと聞かれたこともあった。家が流失しご遺体を持ち帰れないと言い一生懸命、遺体袋の下に布団をひいていたお婆さんもいた。発見場所が同じ3体のご遺体があった、母親と小学生くらいの子供二人である、父親は無事なのか？この状況から立ち直れるのか？そんな事を考えながらチャートをとった、

東日本大震災における
遺体の身元確認状況

発災後約2年8か月
平成25年11月8日現在

県名	身元確認状況			主たる身元確認の方法			
	検視 遺体数	身元 確認数	身元 不明者数	身体特徴	指掌紋	DNA型	歯牙形状
宮城県	9,535	9,501	34	8,201	288	99	913
		99.6%		86.3%	3.0%	1.0%	9.6%
岩手県	4,672	4,601	71	4,368	46	57	130
		98.5%		94.9%	1.0%	1.2%	2.8%
福島県	1,606	1,605	1	1,358	37	11	199
		99.9%		84.6%	2.3%	0.7%	12.4%
3県合計	15,813	15,707	106	13,927	371	167	1,242
		99.3%		88.7%	2.4%	1.1%	7.9%

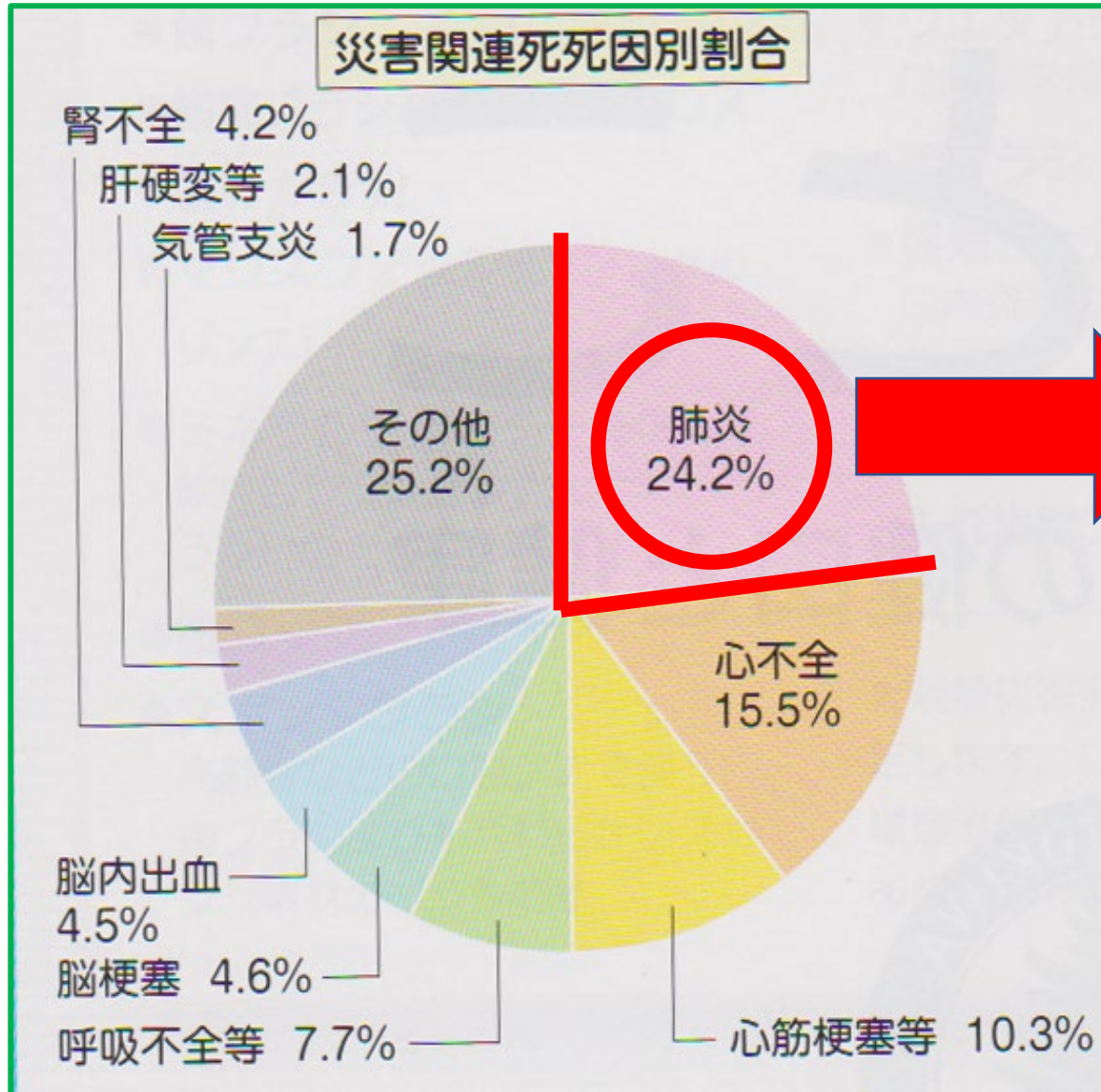
歯科所見による身元判明率は指掌紋やDNA型によるものより高かった。

歯科医療活動への準備



徳島県歯科医師会は、大規模災害が起きても医療連携体制を提供できるように整備しています。
南部（阿南）、東部（歯科医師会）、西部（美馬）にポータブルユニット、発電機、
ポータブルレントゲン等の設備を整えています。

阪神淡路大震災における災害関連死（約5000人）死因別割合



肺炎の内、大部分は
誤嚥性肺炎

災害時の歯科の大きな役割は、
応急処置後の誤嚥性肺炎予防による
災害関連死の予防である、
と考えます。

訓練の様子

口腔内の所見からたくさんの情報が見つかる
少しでも早くご遺族の方に身元を確認してあげたい



子供の検視はつらかった、死後硬直で開かない小さな口にスパチュラをねじ込み無理やり開ける、家に帰してあげるからお願いだから開けてくれ、心の中でお願いする、乳歯列でカリエスのないご遺体を何体か見た、母親が食生活に気を配り、仕上げ磨きもきちんとしていたのだろう、どれだけかわいがっていたか想像できる、私はチャートを取りながら早く家に帰れるように顔に付いた泥や鼻血のあとをきれいにし、泥だらけの前髪を上げきれいな顔を出してあげる事しかできなかった。

真夏にテントの中での検視はつらい、オベ着の下のTシャツの汗がしぼれる、また暑さが遺体の損傷を加速する、オベ用の帽子、オベ着、ビニール製のエプロンをして髪や衣服に付いた臭いは取れない、マスクの鼻のところにはハッカ油を染み込ませている。損傷がひどいご遺体にうちの主人だといってすがりつく女性がいた、一緒にきた親族は損傷がひどいご遺体に近づけない、ご遺体から引き離し歯科のカルテを持ってくるように勧めた、この一件以来ご遺体の損傷、臭いは、我慢できるようになった、あたりまえだが、私が検視しているご遺体は皆、だれかの夫、妻、父親、母親、息子、娘なのである。

警察官と歯科医師共同での身元確認作業訓練の様子

